

## 放送ストリーミング情報収載

### 放送ストリーミング情報【2018No.134】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：アントン・ブルックナー

曲名：交響曲第 9 番 (サマーレ、フィリップス、コールス、マッズーカによる 4 楽章完成版／1985-2008 年・2010 年改訂)

演奏：ラトル指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/51213>

概要：

2018 年 5 月 26 日ベルリンフィル大ホールの演奏です。



その他、下記が演奏されました。

ハンス・エブラハムセン 管弦楽のための 3 つの小品

(初演・財団法人ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団委嘱作品)

演奏されたブルックナーの交響曲第 9 番補筆版については BPODCH のサイトの解説は、以下のとおりです。

「ブルックナーの交響曲第 9 番は未完に終わりましたが、作曲家自身が 3 楽章での上演を望んでいなかったことは彼の手紙や証言からも明らかです。サー・サイモン・ラトルは、「ブルックナーはあと 2 ヶ月長生きしていれば、交響曲第 9 番を完成させていただろう」と語っています。1983 年から 2010 年にかけて、サマーレ、フィリップス、コールス、マッズーカという 4 人の作曲家／音楽学者による複雑な工程を経て完成した補筆版は、その集大成と呼べる成果です。コールスはこのように語ります。「(フィナーレは) 全部で 653 小節。440 小節はブルックナーのスコアに符合し、うち 208 小節は完全にオーケストレーションも施されている。他の 117 小節は彼のスケッチなどから再生でき、96 小節は音楽的な類推技術を使って勝ち取らねばならなかった。まったくブルックナーの手によらないのは

わずか 37 小節に過ぎない。この上演版は、例えばモーツァルトの「レクイエム」に比べると、異質な要素が入り込む要素ははるかに少ないのだ。」

上記のように第 4 楽章は長年月をかけて丹念に補筆されたものであり、ラトルも満足するレベルと評価しているだけあって、ブルックナーの絶筆のこの壮大な曲を、1 楽章から 4 楽章まで通して違和感なく聴くことができます。

以上